

BELLUNA

Interim Business Report **ベルーナ**

第37期 中間株主通信

(平成24年4月1日～平成24年9月30日)



連結業績の推移

(単位：百万円)

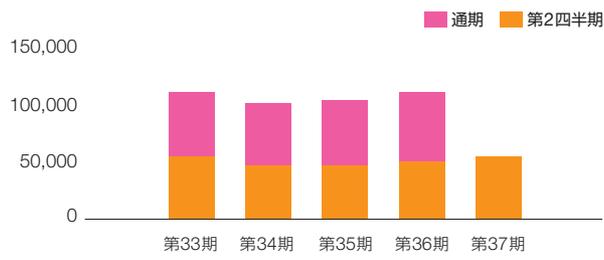
	第33期		第34期		第35期		第36期		第37期
	第2四半期 平成20年9月	通期 平成21年3月	第2四半期 平成21年9月	通期 平成22年3月	第2四半期 平成22年9月	通期 平成23年3月	第2四半期 平成23年9月	通期 平成24年3月	第2四半期 平成24年9月
売上高	54,646	109,912	46,008	100,101	46,822	103,460	49,754	110,300	54,242
経常利益	2,236	△2,239	1,659	4,267	2,450	6,364	1,934	7,151	2,535
四半期(当期)純利益	443	△8,763	1,039	1,276	1,158	4,389	1,020	4,294	1,828
1株当たり純利益(円)	8.74	△173.72	20.74	25.47	23.12	87.57	20.40	86.53	37.39
総資産	155,947	133,868	126,259	119,703	111,878	110,595	110,794	99,174	102,645
純資産	64,061	53,808	54,452	54,217	54,692	57,465	58,186	60,805	62,042
総資産利益率(ROA)(%) ^{*1}	—	1.0	—	3.6	—	6.0	—	7.2	—
自己資本利益率(ROE)(%) ^{*2}	—	△14.9	—	2.4	—	7.9	—	7.3	—

*1 総資産利益率 = (営業利益 + 受取利息及び配当金) / 期首・期末総資産平均

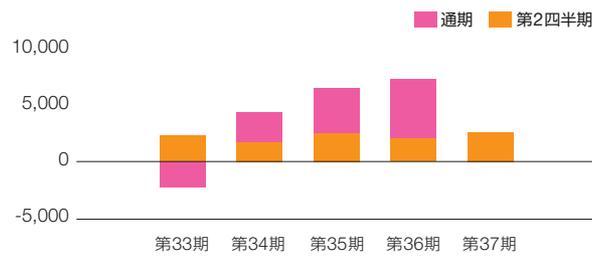
*2 自己資本利益率 = 当期純利益 / 期首・期末自己資本平均

(注)△は損失

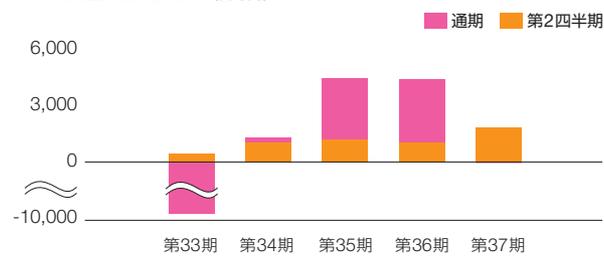
売上高 (百万円)



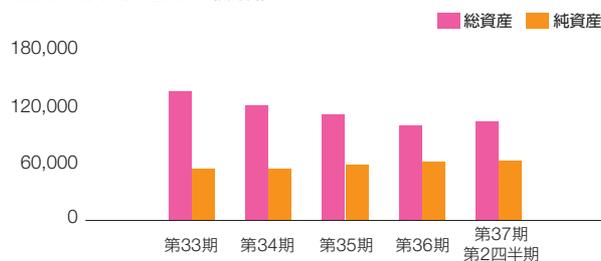
経常利益 (百万円)



四半期(当期)純利益 (百万円)



総資産および純資産 (百万円)





当第2四半期の概況

当第2四半期の連結ベースの売上高は、前年同期比9.0%増の542.4億円となりました。これは主力の総合通販事業において同8.3%、また専門通販事業で同5.8%増加したことなどによるものです。

利益面では、営業利益は原価率の上昇などにより同0.1%減の21.7億円となりました。経常利益は、前期に計上した為替差損がなくなったことなどで同31.1%増の25.4億円となり、四半期純利益は同79.2%増の18.3億円となりました。

財政状態については、販売用不動産および仕掛販売用不動産が減少したものの、商品が増加したことにより、総資産は前期末比34.7億円増加の1,026.5億円

となりました。一方、負債は同22.3億円増加の406.0億円となりました。純資産は同12.4億円増の620.4億円となり、自己資本比率は60.4%となりました。

当社を取り巻く環境

当第2四半期の国内経済は、復興需要に加え個人消費が堅調に推移したこともあって景気は緩やかな回復傾向にありましたが、欧州債務問題や新興国の景気減速懸念など、景気の先行きは不透明な状態が続いています。

通信販売の市場規模は5兆円を突破し拡大が続いていますが、新規参入企業の増加により、競争が激化しています。一方で、通販代行などのビジネスチャンス

の拡大につながっており、全体としてはスマートフォンの普及もあり今後も成長が加速する業界であると言えます。

このような環境下で、当社は平成25年3月期に売上高1,235億円、営業利益90億円の達成を目指す短期経営計画に取り組んでいます。

データベース関連事業の強化

総合通販事業、専門通販事業、ソリューション事業の3事業を「データベース関連事業」と位置付け、3事業の成長性と収益性の実現に注力しています。

総合通販事業の売上高は、前年同期比8.3%増の357.0億円となりました。Eコマースの売上高は同24.9%増の69.7億円となり、引き続き大幅な伸びを実現しています。また若年層向け通販事業は、インターネット経由での新規顧客獲得が進んでいます。平

成24年8月からは若年層向け通販ブランド“RyuRyu（リュリュ）”のイメージCMを展開しており、更なる事業拡大を図っています。

専門通販事業の売上高は、前年同期比5.8%増の107.5億円となりました。化粧品通販のオージオと看護師向け通販のナースリーが二桁成長を遂げています。また、ナースリーの黒字転換と原価率の低減により営業利益が同103.6%増の6.0億円と大幅増となりました。

財務健全性の強化

財務面では、ネットキャッシュがプラスに転じ、その後も着実に増加傾向にあります。また、純資産も積み上がり、自己資本比率が60.4%となりました。こうした状況から、(株)日本格付研究所による格付けも「BBB+(安定的)」を維持しております。

短期経営計画

基本方針

- ① データベース関連事業*の強化
- ② 2次活用事業の新規立ち上げおよび強化
- ③ 財務健全性の強化
- ④ コンプライアンス・ガバナンス体制の維持
- ⑤ 安定した株主還元

*総合通販事業、専門通販事業、ソリューション事業がデータベース関連事業に該当します。

2次活用事業の新規立ち上げおよび強化

卸売事業の強化およびアジア展開に加え、店舗事業のテスト展開にも取り組んでいます。店舗事業は、関東エリアに6店舗のテスト店を展開しており、当期中に10店舗に拡大する予定です。新たな事業の柱となるよう、引き続き各事業の育成に注力してまいります。

今後の見通し

当社は、平成25年3月期に売上高1,235億円、営業利益90億円を目標とする短期経営計画に取り組んでいますが、当初計画していなかったイメージ広告の開始などコストアップ要因もあり、通期の見通しは増収増益となるものの短期経営計画の目標を下回る見込みとなっております。しかしながら、短期経営計画の達成を目指し、最大限努力してまいります。

株主還元に対する考え方

当社は、企業価値の向上を通じて株主の皆様の日ごろのご支援に報いることを重要な方針として考えています。配当については、毎期の業績の状況および中期的な成長を見据えた戦略的投資を勘案しつつ、安定した配当を行う予定です。また、前期に引き続き平成24年5月より自社株の取得を実施しています。

当社は創業以来の方針である「顧客志向・顧客密着」を忠実に実行し、お客様の衣食住遊を豊かにする商品・サービスを時代のニーズに合った形で提供し続け、多くのお客様に支持される企業を目指してまいります。

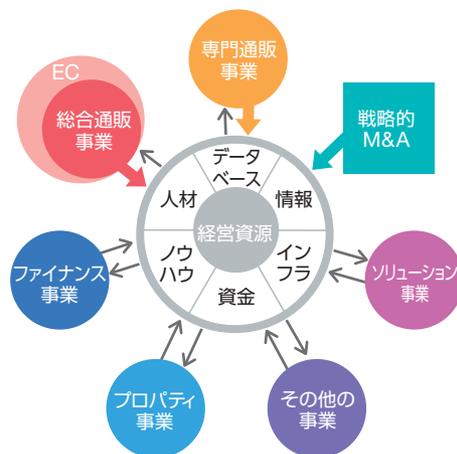
今後とも、当社および各事業へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

代表取締役社長 安野 清

ビジネスモデル

ベルーナは、総合通販事業で培った全国1,300万人以上の顧客データベースやコンタクトセンターおよび物流センターなどの通販インフラといった経営資源を保有しています。この強みを最大限に活かし、成長性と収益性が見込まれる専門通販、受託などの事業を展開してきました。今後も顧客志向・顧客密着を合言葉に、経営資源の有効活用によって様々なニーズに応えたサービスを展開する「通販総合商社」を熟成させてまいります。



イメージCMの放送開始



当社は、平成24年8月より若い女性をターゲットにした初めてのイメージCMの放送を開始しました。CMを通して若年層ブランド“RyuRyu(リュリュ)”の認知向上とお客様のロイヤリティ向上を図り、事業の更なる拡大を目指してまいります。

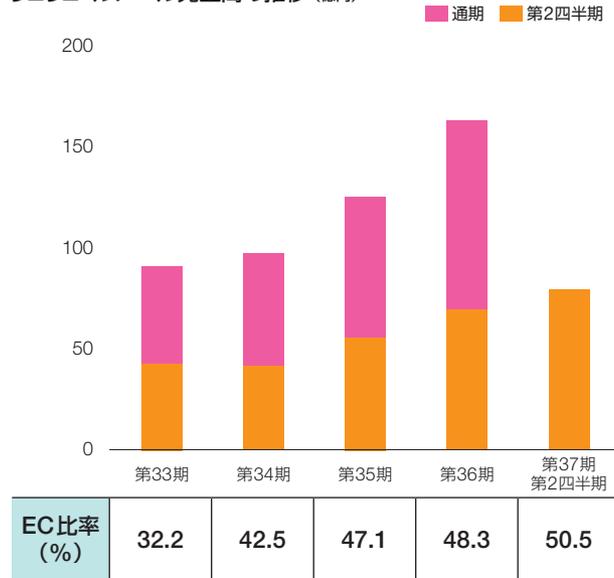


顧客ロイヤリティの向上を目指す

当社は、平成11年に20代女性向け通販カタログ「リュリュ」を創刊し、若年層向けの通販事業を展開してきました。平成13年には30代女性向け通販カタログ「ルアール」を創刊し、「リュリュ」と「ルアール」を合わせて通販ブランド“リュリュ”として展開しています。

若年層向け通販事業はEコマースとの親和性が高く、当第2四半期においてEC比率は50%を超えました。Eコマース市場は競争が激しく、他社との比較が容易なため、ブランドへの信頼や親近感がより重要視されています。当社は“リュリュ”のイメージCMを放送し、ブランド認知度の向上およびお客様のロイヤリティ向上につなげ、更なる事業の拡大を図ってまいります。

リュリュ・ルアール売上高の推移（億円）





キャラクターに篠田麻理子さんを起用

“様々な女性のオシャレを応援するトレンド通販”として、20～30代の女性をターゲットとする“リュリュ”のイメージキャラクターに、アイドルとしての枠に捉われずモデルとしてファッションショーなどでも幅広く活躍している篠田麻理子さんを起用しました。元気でオシャレな若い女性に共感してもらえるCMを通して、ブランド認知度の更なる向上につなげていきます。

媒体別ターゲット層



CM放送に合わせて 専用WEBサイトをオープン

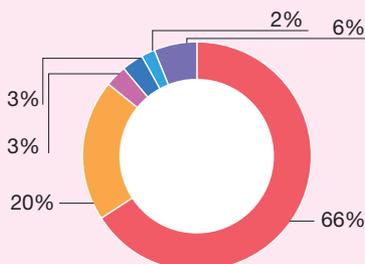
テレビCMの放送に合わせて専用WEBサイトをオープンしました。同サイトでは、篠田麻理子さんのインタビュー動画やCMメイキング映像が見られるほか、コーディネート投票キャンペーンなどのコンテンツを順次掲載しており、お客様も参加しながら楽しめる内容となっています。



(WEBサイト) <http://belluna.jp/ryuryu/>

連結業績の概況

連結売上高
542億円



総合通販事業

カタログやインターネットなどを媒体とするアパレル、雑貨、インテリア用品などの通信販売事業。特に若年層に向けてはインターネットやモバイル、スマートフォンを活用して展開

専門通販事業

グルメ・化粧品・健康食品・看護師用品などの専門分野に特化した通信販売事業

ソリューション事業

封入・同梱サービスや通販代行サービスなど、当社のデータベースやインフラを活用した受託事業

ファイナンス事業

通信販売事業の顧客を主な対象としたB to Cファイナンス事業、および事業会社向けのB to Bファイナンス事業、韓国でのファイナンス事業

プロパティ事業

オフィスビルなどの賃貸、および再生・開発を手掛ける不動産事業

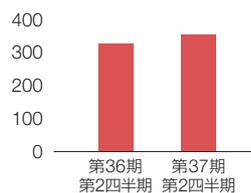
その他の事業

和装関連の販売事業および商品企画のノウハウを活用した卸販売事業

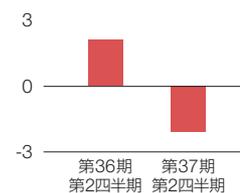
総合通販事業

夏物が順調に売上を伸ばしたことにより、売上高は357.0億円（前年同期比8.3%増）となりました。セグメント損益は残暑の影響などにより2.1億円（前年同期は2.1億円の利益）の損失となりました。

売上高（億円）



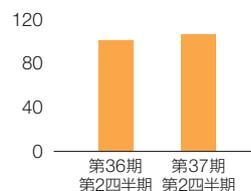
セグメント損益（億円）



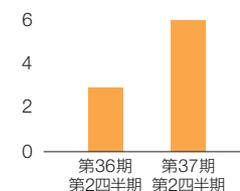
専門通販事業

化粧品、看護師向け事業に加えて、健康食品、グルメ事業でも堅調に売上を伸ばしたことにより、売上高は107.5億円（同5.8%増）、セグメント利益は6.0億円（同103.6%増）となりました。

売上高（億円）



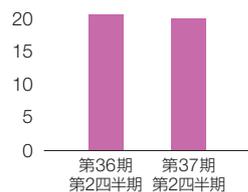
セグメント利益（億円）



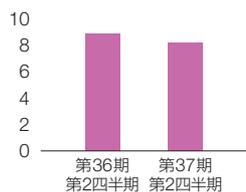
ソリューション事業

大口クライアントの取引縮小があり、封入・同梱サービスは新規クライアントの獲得でカバーしたものの、通販代行サービスが苦戦し、売上高は20.0億円（同3.5%減）、セグメント利益は8.2億円（同7.5%減）となりました。

売上高 (億円)



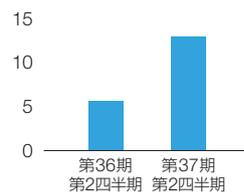
セグメント利益 (億円)



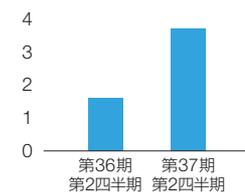
プロパティ事業

販売用不動産の売却により、大幅な増収増益となり、売上高は13.2億円（同130.9%増）、セグメント利益は3.7億円（同125.6%増）となりました。

売上高 (億円)



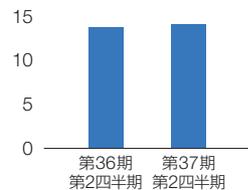
セグメント利益 (億円)



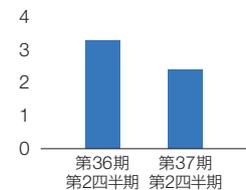
ファイナンス事業

前年同期比で国内ファイナンス事業の営業貸付金が減少したものの、韓国でのファイナンス事業が伸びたことにより、売上高は14.2億円（同2.5%増）となりました。一方でセグメント利益は、貸倒引当金の戻り益が大幅に減少したことなどにより2.4億円（同27.4%減）となりました。

売上高 (億円)



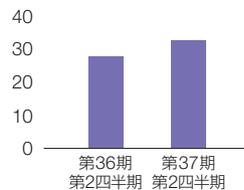
セグメント利益 (億円)



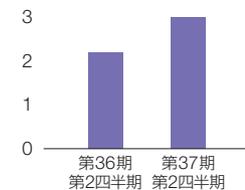
その他の事業

卸事業のフレンドリー（株）、和装関連の店舗を展開する（株）BANKANが順調に売上を伸ばし、売上高は32.5億円（同14.9%増）となり、セグメント利益は3.0億円（同33.8%増）となりました。

売上高 (億円)



セグメント利益 (億円)



連結財務諸表(要旨)

第2四半期連結貸借対照表

(単位：百万円未満切捨)

	前第2四半期 平成23年9月現在	当第2四半期 平成24年9月現在	前期末 平成24年3月現在
資産の部			
流動資産	69,592	59,329	58,292
固定資産	41,202	43,315	40,881
有形固定資産	27,632	29,015	28,587
無形固定資産	4,691	4,396	3,998
投資その他の資産	8,878	9,904	8,295
資産合計	110,794	102,645	99,174
負債の部			
流動負債	40,855	30,259	27,718
固定負債	11,752	10,343	10,650
負債合計	52,608	40,602	38,369
純資産の部			
株主資本	59,370	63,194	61,915
資本金	10,607	10,607	10,607
資本剰余金	11,003	11,003	11,003
利益剰余金	46,860	51,223	49,761
自己株式	△9,100	△9,639	△9,456
その他の包括利益累計額	△1,184	△1,151	△1,110
少数株主持分	0	0	0
純資産合計	58,186	62,042	60,805
負債純資産合計	110,794	102,645	99,174

【資産合計】

資産合計は、前期末に比べ3,471百万円増加しました。これは、秋冬シーズンに向けた仕入れにより商品が増えたことに加え、投資有価証券が増加したことによるものです。

【負債合計】

負債合計は、前期末に比べ2,233百万円増加しました。これは主に、支払手形および買掛金が増加したことによるものです。

第2四半期連結損益計算書

(単位：百万円未満切捨)

	前第2四半期 自平成23年4月 至平成23年9月	当第2四半期 自平成24年4月 至平成24年9月	前期 自平成23年4月 至平成24年3月
売上高	49,754	54,242	110,300
売上総利益	28,095	30,483	61,621
販売費及び一般管理費	25,920	28,309	54,215
営業利益	2,175	2,173	7,406
営業外収益	374	567	864
営業外費用	614	205	1,119
経常利益	1,934	2,535	7,151
特別損失	116	58	365
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,817	2,477	6,785
法人税、住民税及び事業税	84	544	1,077
法人税等調整額	713	104	1,413
四半期(当期)純利益	1,020	1,828	4,294

【売上高】

売上高は、前年同期に比べ9.0%の増収となりました。総合通販事業や専門通販事業といったデータベース関連事業を中心に順調に売上を伸ばしたほか、プロパティ事業において販売用不動産の売却がありました。

【営業利益】

専門通販事業およびプロパティ事業において大幅な増益となった一方、総合通販事業やソリューション事業、ファイナンス事業で減益となった結果、営業利益は前年同期に比べ0.1%の減益となりました。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円未満切捨)

	前第2四半期 自平成23年4月 至平成23年9月	当第2四半期 自平成24年4月 至平成24年9月	前期 自平成23年4月 至平成24年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,487	2,450	11,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,520	△1,529	299
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,114	△1,428	△17,668
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△3	△22
現金及び現金同等物の増減額	△2,143	△510	△6,121
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	15,507	11,018	11,529

株式の状況 (平成24年9月30日現在)

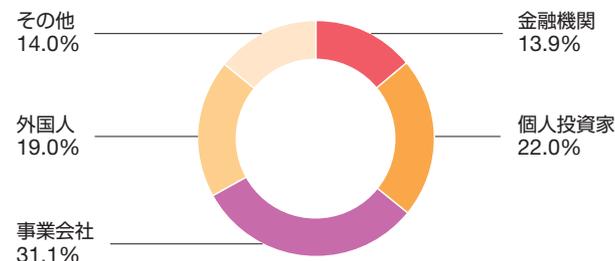
発行可能株式総数 130,000,000株
 発行済株式の総数 56,592,274株
 株主数(除く自己名義) 6,295名

大株主

大株主(上位10名)	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社フレンドステージ	16,755	34.4
安野 清	5,467	11.2
ビービーエイチフォーフィデリティ ロープライスストック ファンド 常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行	5,100	10.5
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社	3,601	7.4
安野 公	1,662	3.4
株式会社三井住友銀行	1,123	2.3
野村信託銀行株式会社	1,037	2.1
みずほ信託銀行株式会社	773	1.6
CBNY DFA ITHL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO 常任代理人 シティバンク銀行株式会社	593	1.2
日本マスタートラスト信託 銀行株式会社	490	1.0

注)信託銀行各行の持株数には、信託業務に係る株式が含まれております。

所有者別株式分布状況



会社の概要 (平成24年9月30日現在)

商 号 株式会社ベルーナ
 資 本 金 106億7百万円
 代 表 者 安野 清(代表取締役社長)
 創 業 昭和43年9月
 設 立 昭和52年6月
 従業員数 1,126名(連結)
 事業内容 カタログ等による通信販売を核に、受託、金融、
 卸売等の分野で展開する通販総合商社

ホームページ <http://www.belluna.co.jp/>

主な事業所

本 社 (埼玉県上尾市)
 本 館 (埼玉県上尾市)
 東京オフィス (東京都新宿区)
 アネックスビル・第2アネックスビル (埼玉県上尾市)
 北関東オーダーレセプションセンター (埼玉県鴻巣市)
 川越オーダーレセプションセンター (埼玉県川越市)
 領家丸山流通システムセンター (埼玉県上尾市)
 宇都宮流通システムセンター (栃木県鹿沼市)
 領家山下クリニックセンター (埼玉県上尾市)
 領家山下流通システムセンター (埼玉県上尾市)

役 員

代表取締役社長	安野 清	取締役	生川 雅一
取締役	安野雄一朗	取締役	下川 英士
取締役	野村 育孝	常勤監査役	河原塚隆史
取締役	穴戸 順子	監査役	中村 勲
取締役	島野 武夫	監査役	渡部 行光

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
- 定時株主総会 6月下旬
- 基準日(定時株主総会関係) 3月31日
- 株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
☎0120-232-711(フリーダイヤル)
- 公告の方法 電子公告により行う
<http://www.belluna.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた時には、
日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 **ベルーナ**

〒362-8688 埼玉県上尾市宮本町4番2号
TEL : 048-771-7753(代表)
(ホームページ)<http://www.belluna.co.jp/>



本誌は、森林環境に配慮したFSC
認証紙に植物インクを使用して
印刷しています。